

Part **1**

国内調査

2005年と2009年の
経年比較を中心に

調査概要

1. 調査テーマ 子どもや家族との関係、家事・育児の実態、父親の役割、父親の育児観、ワークライフバランスなど
2. 調査方法 インターネット調査
3. 調査時期 2009年8月（第1回調査 2005年8月）
4. 調査対象・調査地域

【2009年調査（第2回調査）】

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）および地方の0歳から6歳就学前の乳幼児を持つ父親 4,574人。

※比較群として地方部の父親に対しても調査を行った（秋田県、岩手県、山形県、福島県、新潟県、富山県、福井県、鳥取県、島根県、佐賀県の0歳から6歳就学前の乳幼児を持つ父親 529人）。

※本報告書の09年の集計母数は、05年と比較するため、首都圏のサンプルのみを用いている。

※調査委託会社のモニターを使用。

【2005年調査（第1回調査）】

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の0歳から6歳就学前の乳幼児を持つ父親 2,956人。

※調査委託会社のモニターを使用。

5. サンプル数

【2009年調査（第2回調査）】 首都圏の父親 計4,574人

(人)						
0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児
721	721	721	721	721	721	248

※6歳児は、就学前のみを対象としているため、6歳0か月～4か月である。

【2005年調査（第1回調査）】 首都圏の父親 計2,956人

(人)						
0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児
429	468	468	471	489	481	150

※6歳児は、就学前のみを対象としているため、6歳0か月～4か月である。

※05年調査のデータは、本報告書の制作にあたり、09年調査のデータクリーニングと同じ観点で、再度クリーニングを行ったため、『第1回 乳幼児の父親についての調査報告書』（2006年3月既刊）とは、有効回答数と一部の数値が異なる。

6. 調査項目

子どもとかわる時間（平日・休日）、家事・育児の実態と希望、妻とのかかわり、女性の就業についての意識、出産への立ち会い、子育てで力を入れたいこと、子どもの将来への期待、進学への期待、家族の中での存在感、祖父母とのかかわり*、理想的な父親イメージ、父親としての将来への不安、ワークライフバランスの考え方、育児休業制度の活用実態、両立支援制度の活用実態と意向*、改正育児・介護休業法についての意見*、仕事・家事・育児以外の活動* など

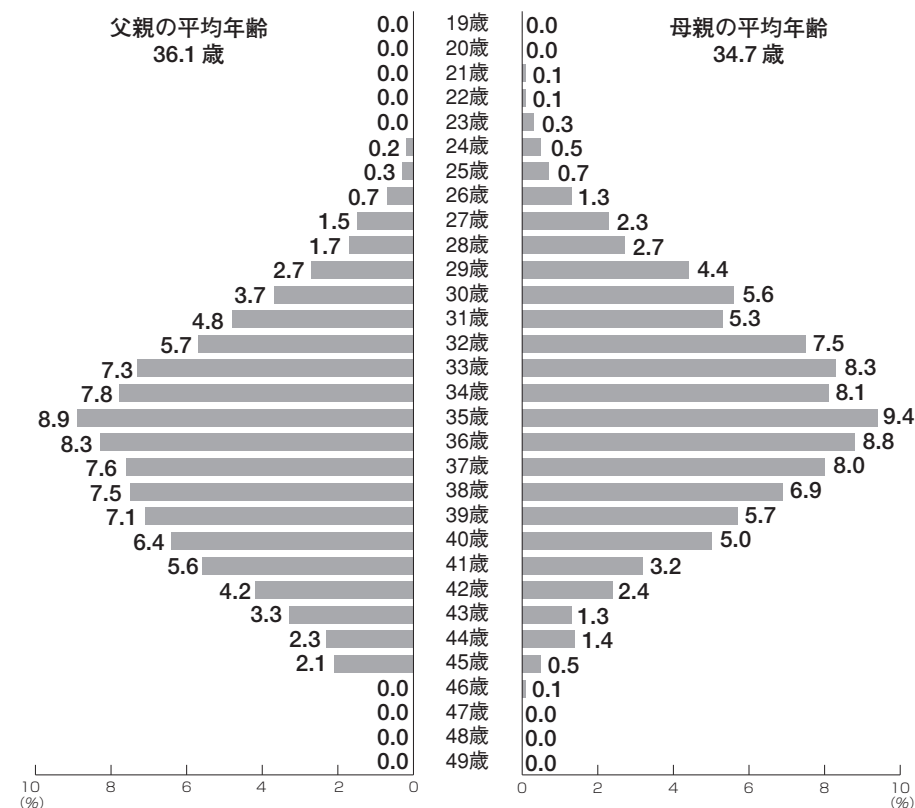
（*は、09年調査で追加した調査項目）

基本属性

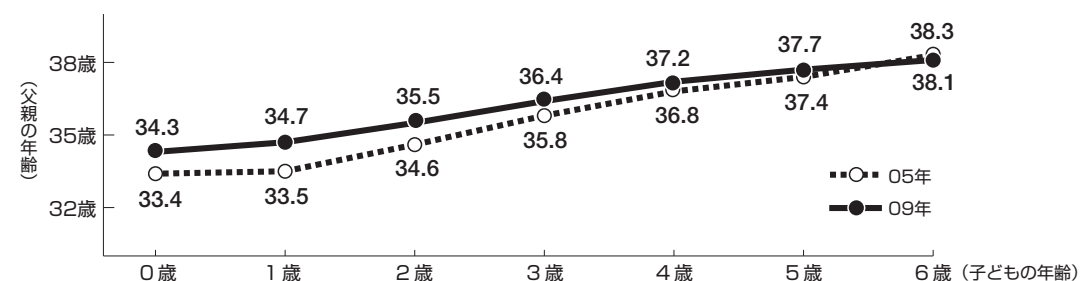
ここで説明する基本属性は、2005年と2009年に実施した、今回の調査の対象である0歳から6歳就学前の乳幼児を持つ父親について、2005年は2,956人、2009年は4,574人（首都圏のサンプルのみ）を母体として算出した数値である。

A 父親の属性

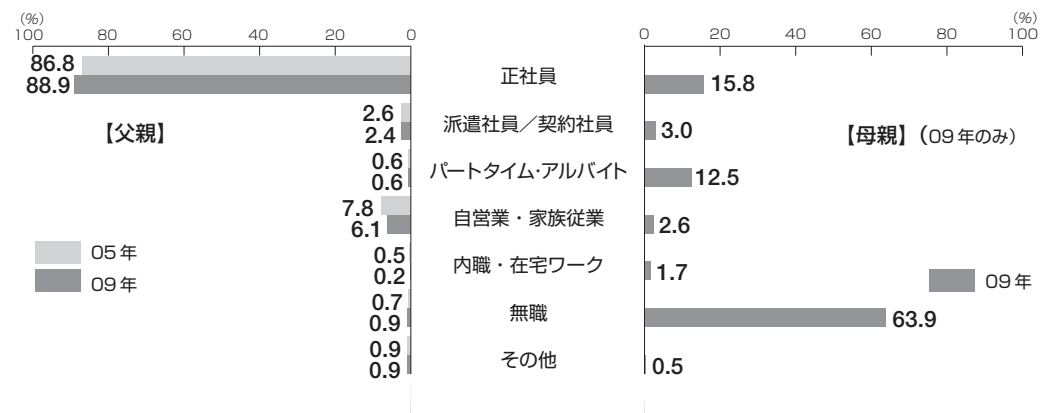
■年齢（父親・母親）（09年）



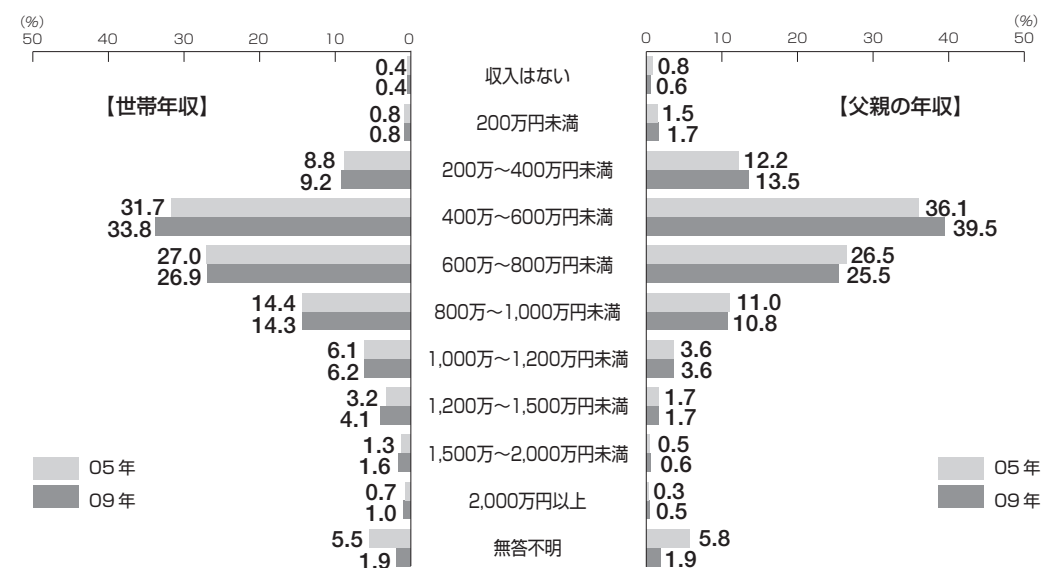
■父親の平均年齢（対象の子どもの年齢別）



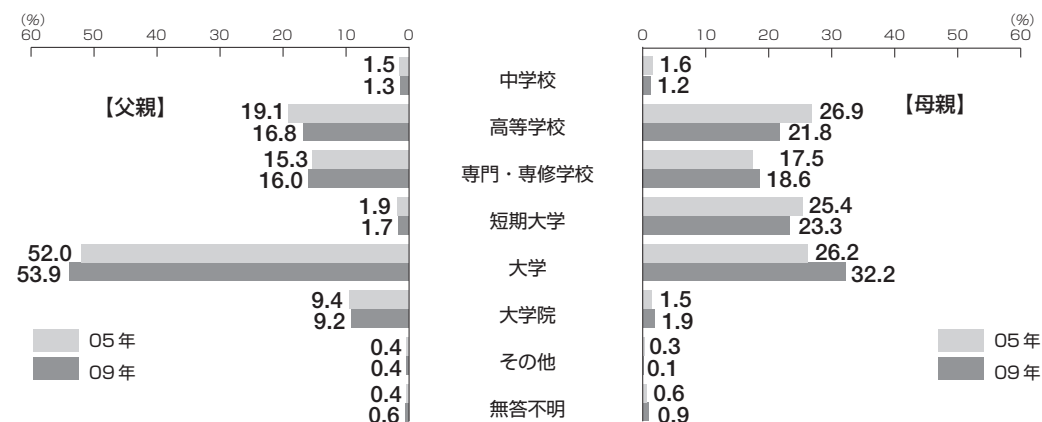
■現在の職業（父親・母親）



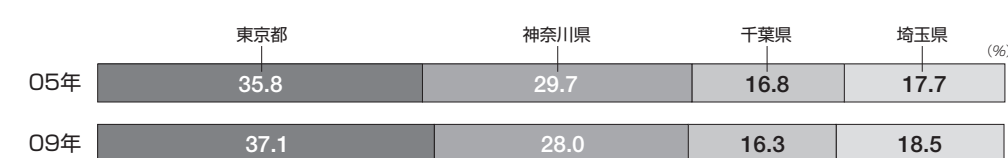
■世帯年収・父親の年収



■最終学歴（父親・母親）

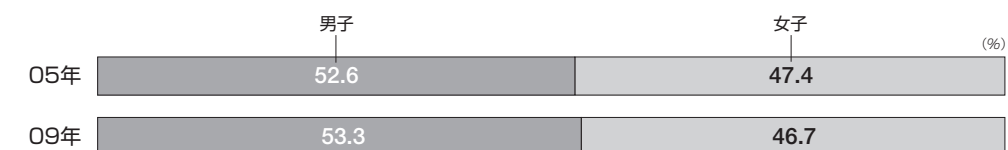


■居住地

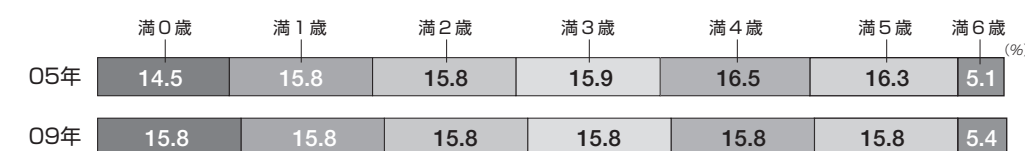


B 子どもの属性

■対象の子どもの性別



■対象の子どもの年齢



■子どもの数



■対象の子どもの出生順位



■対象の子どもの就園状況

